

平成26年度全国及び岡山県学力・学習状況調査 結果と今後の取組について【学校版】

津山市立一宮小学校

<p>教育目標(めざす児童生徒像)</p>	<p>今年度の指導の重点</p>
<p>かしこく やさしく たくましい 児童の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自ら学ぶ子ども ・思いやりのある子ども ・最後までやりとげる子ども ・健康で明るい子ども 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 基礎学力の習熟を図り、学ぶ喜びを体験させる。 人の話はしっかりと聞く。 2. 互いに認め合い、励まし合う態度を育てる。 相手を大切にしたい言葉づかいをする。自分が言われていやなことは言わない。 <u>あいさつをする。</u> 3. 根気よく、責任をもってやりぬく態度を育てる。 一生懸命掃除をする。 4. 健康で安全な生活態度を育てる。 <u>チャイムが鳴ったらすぐに教室へ入る。</u> ろうかは右側を静かに歩く。 _____北陵中ブロックでの共通取り組み

調査結果について(調査結果において明らかになったこと)	
<p>【学力状況調査の結果】 全国(小・中学校)</p> <p>国語、算数ともにA問題は県平均より高い。 国語は「読むこと」の領域が高い。(故事成語「五十歩百歩」の意味と使い方:本校74%(県48%)) 算数は数と計算、百分率、帯グラフの理解が高い。(100-20×4の四則混合式:本校98%(県88%)) B問題は、国語は県平均と同程度、算数は県平均より低い。 国語、算数ともに記述式の問題の正答率が下がり、無解答率が上がる。 (37×24の積が888になる説明の記述:本校42%(県55%))</p> <p>県</p> <p>どの教科も県平均を上回り、特に社会はかなり高い。 国語は、特に5、6年生の学習内容に関する問題がよく解けている。 社会は、6年生の学習内容についての正答率がかなり高い。 理科は、記述式の問題も正答率が高い。 国語では、漢字の書き、文法に関する問題について差がある。 算数では、四捨五入の問題や数量や図形についての知識理解に課題がある。 社会では、資料をもとに説明を記述する問題等について、条件を整えて書くことが弱く、無解答率が上がる。 理科は、観察、実験の技能や基礎問題に課題がある。</p>	<p>【学習状況調査の結果】</p> <p>国語、算数、総合的な学習の時間の学習が楽しい、将来役に立つと思っている児童が県平均より多い。 学校は楽しいと感じている児童が県平均より多い。 先生が良いところを認め相談しやすいと感じている児童が県平均より多い。 発表する機会に、うまく発表できると感じている児童が県平均より多い。 テレビを2時間以上視聴する児童が県平均より少ない。 自分のよいところがある、最後までやり遂げることができると感じている児童が県平均より多い。</p> <p>家庭学習を平日に2時間以上行っている児童はいるが、30分より少ない児童は県平均より多い。 読書が好きでない、読書時間が少ない児童や図書室を利用しない児童が県平均より多い。 あいさつができる児童が県平均より少ない。 友だちとの約束はほとんど全員が守れているが、学校のきまりが守れていない児童がいる。 話すことよりも書くことが苦手と感じている児童が県平均より多い。 発表するのは好きだが、話し合い活動の良さを感じている児童が県平均より少ない。</p>

<p>成果と課題</p>	<p>課題に対応した改善方法</p>
<p>成果</p> <p>振り返りテストを繰り返し行い、個々のつまずきを分析し、全体指導や個人指導を行ったことにより、5年生のたしかめテスト時より向上した。(計算領域は本年度82%(昨年度も82%)と確実に定着している。) 授業中に意見を発表する場面を取り入れることにより、発表することが得意だと感じている児童が多い。</p> <p>課題</p> <p>国語の「読むこと」「書くこと」に関して個人差が大きい。 どの教科においても「条件に正対して書き表す」「本文や資料を読み取る」ことに課題がある。 家庭学習はほとんどの児童が行っているが、決められた課題以外の学習を行う児童は県平均より少ない。 考えを交流することの良さを感じている児童や、話すことは得意だが最後まで聞くことが苦手と感じている児童が県平均より多い。</p>	<p>朝学習の時間に、前学年・前単元・間違えやすい問題等の振り返りプリントを継続して行う。 全教科の授業、朝学習の時間に、「書くこと」を取り入れ、適切に評価し個別指導を行う。 読書の習慣をつけるために、毎週朝の読み聞かせボランティア(1~3年生)を継続するとともに、4~6年生も図書館を定期的に活用し、読書に親しませる。また、図書委員会の読書週間の取り組みを充実させる。</p> <p>校内研修に模擬授業を取り入れ、話し合い活動の良さを共通理解する。その上で、授業に組み込み、児童の考えを深めたり広めたりする活動につなげる。 家庭学習の内容を校内である程度統一し、保護者にお便りや懇談で周知し、協力を得る。 家庭学習強化週間を設定し(北陵中ブロック)、家庭学習や自主学習の習慣付けを図る。 毎朝の登校指導(校長、主幹教諭、児童支援等)や毎月の登校指導(担任、専科等)であいさつ運動を続けるとともに、児童会でも定期的にあいさつ運動を行う。</p>

<p>取組の検証方法及び検証時期</p>	<p>達成目標(数値目標)</p>
<p>岡山県学習到達度確認テストを活用する。(単元終了時) 家庭学習強化週間での児童アンケートを実施する。(北陵中学校定期テスト前) 読書への意識や図書館活用状況について児童アンケートを実施する。(毎学期) 振り返り小プリントによる定期的な確認テストを実施する。(朝の学習) 上記の結果を受けて、改善方法の見直しを図る。</p>	<p>岡山県学習到達度確認テストを全学年で実施する。 家庭学習1時間以上の児童の割合を80%以上(高学年)に上げる。 読書に親しむ児童の割合を80%以上に上げる。 振り返り小プリント確認テストを90%以上の正答率に上げる。 全国学習状況調査のポイントアップを図る。</p>